

# 小学校における効果的な保健授業の研究 —薬物乱用防止に関する指導に着目して—

巽 飛香里 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)  
指導教員 谷川 尚己

キーワード：薬物乱用，危険ドラッグ，学校薬剤師

## 1. 緒言

近年，児童の発育・発達の早期化や生活習慣の乱れなどに対応するため，小学校の高学年段階で指導が始まっていた保健に関する内容を，平成14年度より，中学年から指導を始めることになっている。本田浩江<sup>2)</sup>らは，「歯・口の健康づくり」についての保健指導に関する，効果的な授業展開を研究した。そこで私は，高学年の「病気の予防」という単元に着目し，効果的な教育法を研究し，実践で活かしたいと考える。本研究では，現在深刻な問題となっている「薬物乱用」に関する指導に着目し，効果的な授業を考案することを目的とする。

## 2. 研究方法

県内3小学校の小学6年生262名に対して，授業前に13項目の児童の薬物に対する意識アンケート調査<sup>1)</sup>を実施。その後学校薬剤師と連携し考案した授業を行った。

## 3. 結果と考察

本研究で実施した県内3小学校の児童から得たアンケート結果と，全国の小学生に実施されたアンケート結果を比較した。アンケート13項目のうち特に大きな差があったのは，「危険ドラッグ」の認知度に関する項目である。「危険ドラッグ」を知っている児童は県内3小学校が89.7%だったのに対して，全国の調査では66.6%であった。（図参照）全国の調査が行われてから，本研究の調査を行うまでの1年間で注目度がかなり上がっていることがわかる。また「危険ドラッグ」による事件が後を絶たず，メディアで大きく捉えられていることが大き

な要因ではあると思うが，インターネットの普及により，中高生，若しくは小学生までもが簡単に手に入れられるものとなってしまっていることも要因であり，重大な問題となっている。この結果からも，「危険ドラッグ」に関する指導は，小学校段階から行うことが必要であると考える。

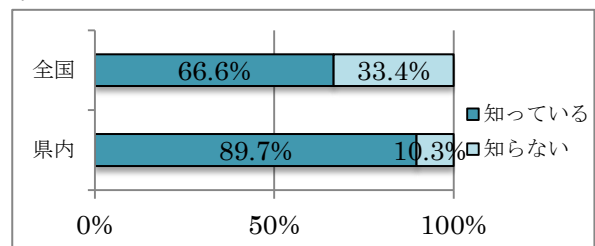


図 危険ドラッグを知っている児童の割合

## 4. まとめ

学習指導要領に沿った薬物乱用に関する指導に付けくわえ，「危険ドラッグ」を含む現在の社会の薬物乱用に関する現状をふまえた指導が必要であることがわかった。また本研究で効果的な教材研究を行うにあたって，学校薬剤師の協力は必要不可欠であった。今後学校薬剤師が，保健の指導に関わりやすい学校の体制を作ることが，今後の課題であるといえる。

### 【引用・参考文献】

- 1) 文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課 (2013) 薬物等に対する，意識等調査報告書
- 2) 本田浩江，北原和明，水門美穂子，上村弘子，棟方百熊，宮本香代子，門田新一郎 (2014) 「付属小学校における保健指導の展開—指導の実際を養護実習に活かす—」 P133～141